

## 1 中野市の下水道

### (1) 下水道の種類

下水道には、その制度により種類があり、中野市の下水道は以下の種類に分けられます。

- ①公共下水道
- ②特定環境保全公共下水道
- ③農業集落排水施設

本市では、広義の公共下水道である①、②をあわせて下水道事業特別会計、③を農業集落排水事業特別会計とし、事業を実施しています。

下水道の処理区域は下記のとおりに分けられます。

【パンフレット「中野市の下水道」を参照】

公共下水道	…中野、七瀬（長嶺）処理区
特定環境保全公共下水道	…牧ノ入、竹原、高丘、上今井処理区
農業集落排水施設	…草間、延徳、日野、大俣、長丘、平岡、科野、倭、永江、毛野川、豊田処理区

### (2) 現況

下水道事業は、市街地下流農地の土壌汚染を契機に昭和49年度に公共下水道基本計画として548haの整備計画を策定して以来、計画的に事業を推進してきました。

公共下水道事業は、昭和60年11月に一部供用を開始し、現在、計画区域943haのうち、平成23年度末現在、整備済み面積は771ha、整備率は80.1%となっています。

特定環境保全公共下水道事業は、平成5年度に事業認可を得て、牧ノ入処理区の整備に着手し、平成7年度に整備が完了しました。

高丘処理区は、平成12年3月に一部供用開始をし、計画区域167haのうち、平成23年度末現在、整備済み面積は150haとなっています。

竹原処理区については、平成10年度に事業認可を得た40haについて平成15年度に整備が完了しました。

上今井処理区については、平成11年度に認可を得た33haについて、平成15年度に整備が完了しました。

公共下水道、特定環境保全公共下水道をあわせた平成23年度末の普及率は66.7%で、水洗化率は84.5%となっています。

農業集落排水施設事業は、中野地域では、昭和61年度に着手した草間地区が、平成

2年4月に供用開始をしました。平成7年に延徳地区、平成8年に長丘地区、平成11年に日野地区、平成14年に平岡地区、平成16年3月に科野地区、12月に大俣地区、平成17年1月に倭地区で供用を開始しました。

豊田地域においては、平成11年12月に毛野川地区、平成14年4月に永江地区、平成16年6月に豊田地区が供用を開始し、平成17年度末で全地区の整備が完了しました。

平成23年度末の普及率は28.6%となっており、水洗化率は77.3%となっています。

なお、公共下水道（特環含む）、農業集落排水施設、合併浄化槽等を合わせた平成23年度末の普及率は96.6%、水洗化率は82.6%です。

【(表-2) 参照】

また、循環型社会をめざし、下水汚泥の有効活用を図るため、平成12年度に中野浄化管理センター、平成15年度にナピア平岡に汚泥堆肥化施設が完成し、供用開始をしています。この堆肥を多くの皆さんにご利用いただき、地域の活性化に役立つことを期待しています。

## (2) 今後の見通し

公共下水道中野浄化管理センターは昭和60年供用開始から27年程経過し、老朽化等のため施設の更新が必要となってきました。

これまでも、平成14年度に施設の改築診断を実施し、平成17・18年に汚泥処理施設の改築を行い、その後、平成21・22年度に水処理施設改築工事を実施しました。

また、農業集落排水施設では、最初に供用開始した草間処理場については、平成19・20年度で処理場機能強化工事を実施しています。

今後は、平成25年に中野浄化管理センターの耐震調査を予定し、災害に強い施設を目指します。また、処理場、管渠の計画的な施設の長寿命化、維持管理に努めていきます。

【表-1】

## 長野県下の下水道等普及状況

平成 22 年度末

種 別	項 目	行政人口 (千人)	平成 22 年度末			実施 市町村数
			普及率			
			区域内人口 (千人)	長野県	全国	
公共下水道		2,161.6	1,696.4	78.5%	73.7%	64
農業集落排水施設			222.2	10.3%	3.0%	60
合併処理浄化槽等			123.5	5.7%	9.1%	74
長野県計			2,042.1	94.5%	85.7%	77

\* 市町村数の計は、いずれかの事業を実施している市町村数

【表-2】

## 中野市の下水道等普及状況

平成 23 年度末

(単位:人)

種 別	行政人口	処理区域内 人口	普及率	水洗化人口	水洗化率
公共下水道	47,138	31,425	66.7%	26,542	84.5%
農業集落排水施設		13,498	28.6%	10,437	77.3%
合併処理浄化槽等		603	1.3%	603	100.0%
計		45,526	96.6%	37,582	82.6%

## 2 中野市の水道事業の現況

### (1) 中野市上水道事業（中野地域）

中野地域における最初の水道は、大正 12 年に大黒町 108 戸と中町 73 戸の簡易水道であり、水源は郡役所井戸と天神井戸でした。当時の中野町では、町の東北端を流れる夜間瀬川の清流を取り入れ、水路によって飲料水はもとより雑用水、農業用水等に利用をしていました。

大正に入り毎年腸チフスが発生し、大正 10 年、同 11 年には 200 余名の患者がでました。この対策として大正 13 年に栗和田地区に清浄な水源を求め、上水道事業経営の創設認可を受け、昭和 2 年 1 月に 1,161 戸に給水を始めました。

昭和 29 年に中野市が発足し、昭和 30 年に第 1 次 5 カ年計画により全市を上水道とし、これ以降給水人口、給水量の増加、浄水方法の変更等により 7 回の拡張事業を行い、現在、計画給水人口 43,900 人、計画給水量 28,000 m<sup>3</sup>/日で認可を受けていますが、第 7 次拡張事業である角間ダムの建設は、現在、一時休止となっています。

### (2) 中野市上水道事業（豊田地域）

豊田地域は、昭和 31 年の豊井村・永田村合併に伴う新村建設計画で全村水道事業を行うことが決定されました。

当時の豊田村の水道は 44 箇所の集落単位であり、整備されていない地域もありました。水源は沢水であり、大雨の時などは水が濁るなど給水状況は不安定でした。

昭和 43 年に斑尾山山麓に試掘ボーリングを行い、水源（1 号・2 号井戸）を確保できたことから、昭和 44 年計画人口 5,700 人、計画一日給水量 1,210 m<sup>3</sup>として上水道事業経営の創設認可を受けました。これ以降、給水量の増加、水源開発等により 6 回の事業変更許可を受け、現在、計画給水人口 6,000 人、計画給水量 2,500 m<sup>3</sup>/日で給水しています。

### (3) 中野市簡易水道事業（北部簡易水道）

北部簡易水道は、笠原・越のうち夜間瀬川右岸の地域、赤岩、柳沢、深沢、田上、岩井、岩井東区を給水区域としており、昭和 44 年度に創設、平成 13 年度には住民組合営の深沢簡易水道の統合による事業変更、平成 22 年度には倭北部簡易水道（田上、岩井、岩井東区）の統合による事業変更を行い、現在、計画給水人口 3,410 人、計画給水量 1,080 m<sup>3</sup>/日で認可を受けています。

### (4) 中野市水道ビジョンの策定

計画的かつ効率的に水道事業を進め、将来にわたって安全で良質な水道水を安定して供給していくための基本計画となる「中野市水道ビジョン」を平成 22 年度に策定しました。

これは、水道の現状を分析・評価することで課題を抽出し、将来への目標を掲げ、その実現に向けて具体的な施策や方針を示しており、今後はこの「中野市水道ビジョン」に基づき、施設整備等を計画的に進めていきます。

【表－3】 水道事業の経営収支実績及び予定

(単位：千円)

区 分			実 績 額			予 定 額		
			平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度 (決算見込)	平成24年度 (予算)	
収益的収支	収益	営業収益	給水収益	843,420	818,608	830,698	819,494	829,295
			受託工事収益	1,823	2,175	3,705	2,342	4,145
			その他の営業収益	21,655	20,406	21,111	21,667	24,969
	営業外収益	一般会計補助金	29,397	19,713	13,086	13,026	12,465	
		その他の営業外収益	5,443	2,730	3,202	3,438	671	
	経常収益 (A)			901,738	863,632	871,802	859,967	871,545
	費用	営業費用	人件費	67,426	49,920	34,472	43,577	43,826
			動力費	42,707	39,987	39,944	41,209	43,213
			光熱水費	1,669	1,614	1,656	2,191	2,158
			通信運搬費	1,955	2,158	2,271	2,301	2,435
			修繕費	74,412	67,400	65,202	74,590	86,324
			材料費	15	30	15	34	138
			薬品費	5,321	5,676	5,501	6,854	7,552
			路面復旧費	2,500	368	600	439	2,834
			委託料	77,662	94,472	93,839	90,380	134,676
			受託工事費	1,666	1,750	1,560	2,270	4,144
			その他	34,497	35,588	33,284	37,789	43,618
		減価償却費 (B)	332,889	335,157	335,377	331,883	347,057	
	営業外費用	資産減耗費 (C)	13,115	19,134	3,498	25,787	21,767	
	経常費用 (D)			848,487	794,511	715,790	753,274	829,435
特別利益 (E)								
特別損失 (F)			3,992	2,704	2,195	2,593	4,287	
当年度純利益(－損失) (G=A-D+E-F)			49,259	66,417	153,817	104,100	37,823	
資本的収支	収入	企業債	565,400	1,032,700	73,200	96,500	104,800	
		工事負担金	14,386	13,354	12,004	16,056	13,870	
		補助金	97,450	26,866	30,650	41,236	33,128	
		その他	1,728	1,779	814	2,638	8,350	
	総収入 (H)			678,964	1,074,699	116,668	156,430	160,148
	支出	建設改良費	171,276	287,608	141,871	425,804	184,415	
企業債償還金		1,309,855	1,141,455	315,505	322,533	331,484		
総支出 (I)			1,481,131	1,429,063	457,376	748,337	515,899	
資本的収支差引 (J=H-I)			-802,167	-354,364	-340,708	-591,907	-355,751	
補てん財源	損益勘定留保資金		499,117	342,454	299,708	413,734	319,071	
	利益剰余金処分額		300,000	0	36,000	160,000	30,000	
	その他		3,050	11,910	5,000	18,173	6,680	
	計		802,167	354,364	340,708	591,907	355,751	
翌年度補てん可能額(繰越額)			693,114	776,564	938,322	822,795	873,691	
区 分			平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度 (決算見込)	平成24年度 (予算)	
供給単価(円/m3)			179.49	176.29	176.09	176.20	176.67	
給水原価(円/m3)			180.21	170.72	151.40	161.48	175.82	
差額(1m3あたりの利益) (円)			-0.72	5.57	24.69	14.72	0.85	

# 中野市水道事業運営審議会委員名簿

任期：平成24年4月1日～平成26年3月31日

氏名	選出母体	役職名
阿藤 博文	中野市農業協同組合	代表理事組合長
原 信重	中野商工会議所	専務理事
小林貴三子	中野市母親クラブ	会長
田川 正和	中野市区長会	会長
島田 君子	中野市食生活改善推進協議会	副会長
高橋剛太郎	中野市豊田地域審議会	委員
清野 竹子	中野市豊田地域審議会	委員
宮寄 三雄	中野市社会福祉協議会	会長
小林 優子	中野市消費者の会	副会長